



**HAL**  
open science

**Sōgaka Magī Sarusedo, Sekijūjisha remmei rīfuretto wo chūshinni**  
挿画家マギー・サルセド - 赤十字社連盟リーフレットを中心に

-  
Eri Matsumura

► **To cite this version:**

Eri Matsumura. Sōgaka Magī Sarusedo, Sekijūjisha remmei rīfuretto wo chūshinni 挿画家マギー・サルセド - 赤十字社連盟リーフレットを中心に -. 2022. <halshs-03868913>

**HAL Id: halshs-03868913**

**<https://shs.hal.science/halshs-03868913v1>**

Submitted on 24 Nov 2022

HAL is a multi-disciplinary open access archive for the deposit and dissemination of scientific research documents, whether they are published or not. The documents may come from teaching and research institutions in France or abroad, or from public or private research centers.

L'archive ouverte pluridisciplinaire HAL, est destinée au dépôt et à la diffusion de documents scientifiques de niveau recherche, publiés ou non, émanant des établissements d'enseignement et de recherche français ou étrangers, des laboratoires publics ou privés.

# GLALICEUR

numéro 68

le 21 novembre 2022

Groupe de recherche  
sur la **L**Angue et la **L**ittérature françaises  
du **C**entre et d'**aillEURs**  
(Tokyo)

contact : [glaliceur2019@gmail.com](mailto:glaliceur2019@gmail.com)

## Sur l'illustratrice Maggie Salcedo : autour de son dépliant de la Croix-Rouge de la jeunesse

Eri MATSUMURA

Cet article en japonais se propose de dater précisément le dépliant de la Croix-Rouge de la jeunesse illustré par Maggie Salcedo, tout en le situant dans la vie et l'œuvre de l'artiste ; le dépliant n'a reçu jusqu'ici qu'une datation vague dans le catalogue des deux bibliothèques qui le conservent.

挿画家マギー・サルセド——赤十字社連盟リーフレットを中心に——

### 1. はじめに

大阪府立中央図書館国際児童文学館には、赤十字社連盟 (League of Red Cross Societies) 発行のリーフレットが収蔵されている。全頁カラーイラスト入りで、青少年赤十字 (Junior Red Cross) 啓蒙用に作られたものである。現在、このリーフレットは国際児童文学館とリーズ大学ブラザートン図書館 (仏語版<sup>1</sup>) での所蔵のみが確認されている。青少年赤十字の歴史はもとより、挿絵を手掛けたマギー・サルセド<sup>2</sup>というフランス人挿画家の足跡をたどるうえでも貴重な資料である。本稿ではこのリーフレットとマギー・サルセドの業績について概観する。

### 2. 赤十字社連盟リーフレットの内容

赤十字社連盟<sup>3</sup>は1919年にアメリカ、フランス、イギリス、イタリア、日本の5カ国によりパリで設立され、23カ国が加盟した。加盟国数が35カ国になった1922年に、赤十字社連盟の総会で青少年赤十字のプログラムが正式に承認された<sup>4</sup>。その結果、各国の赤十字社は生徒たちをジュニア会員に勧誘するようになる。赤十字社連盟は青少年勧誘の手段としてポスター、ポストカード、パンフレット、リーフレットを制作し、それらのイラスト

<sup>1</sup> *Vouslez-vous connaître la Croix-Rouge de la Jeunesse ? Si oui – dépliez-moi !*, Paris, Ligue des Sociétés de la Croix-Rouge, s.d. (Brotherton Library, University of Leeds, Leeds Russian Archive Zengor Collection 173).

<sup>2</sup> 彼女は後述の通りペンネームを複数使っていたが、活動期間の長さからマギー・サルセド (Maggie Salcedo) 名で認知されている。本稿でもこの呼称を用いる。

<sup>3</sup> 1983年に赤十字赤新月社連盟 (League of Red Cross and Red Crescent Societies)、1991年に国際赤十字赤新月社連盟 (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies) に改称された。

<sup>4</sup> この時点ですでに21カ国の赤十字社が独自の青少年部を持っていたが、その数は赤十字社連盟加盟国の増加にしたがい増えていった。

をマギー・サルセドに依頼した<sup>5</sup>。各国の赤十字社に対応するため、ポスターは英語・仏語・スペイン語・チェコ語版が、リーフレットは英語・仏語版が作られた。

では、リーフレットについて具体的に説明する。形状は縦横 12×80 cm の横長の外四つ折りで、イラストと文章が全 6 頁にわたってカラーで印刷されている。

表紙には、“DO YOU WANT TO KNOW ABOUT THE JUNIOR RED CROSS THEN OPEN ME !” (青少年赤十字について知りたいですか。それならページを開いてください) と記載され、その横に “E. STOVER” のサイン入りイラスト (円のなかに赤十字の旗を持った子どもたち) がある<sup>6</sup>。

1 頁目には、赤十字マーク、手をつなぐ少年と少女、地球儀の 3 つのイラストが複数の英単語に挟まれている<sup>7</sup>。これは一種の判じ絵で、全文は “THE JUNIOR RED CROSS UNITES THE CHILDREN OF THE WORLD IN SERVICE TO OTHERS” (青少年赤十字は世界中の子どもたちを他者への奉仕で団結させます) になる。下線部はイラストから推定した単語である。

2 頁目には、“JUNIORS MAKE OTHER PEOPLE HAPPY” (青少年はほかの人たちを幸せにします) という文の下に病気の友を見舞う少女のイラストが、“THEY HELP YOUNG AND OLD” (彼らは若い人も若き人も助けます) という文の横に老婆をささえ買い物を手伝う少年のイラストが描かれている<sup>8</sup>。

3 頁目には、上部に “BUT, THEY UNDERSTAND, THAT TO BE REALLY USEFUL THEY MUST FIRST BE FIT” (しかし、彼らは実際に役立つためにはまず健康でなければならないことを理解しています) という文、左に幼児を風呂に入れる少女のイラストと “SO THEY KEEP CLEAN” (だから清潔を保ちます) の文、右にラグビーをする少年たちのイラストと “AND PLAY OUT OF DOORS” (そして戸外で遊びます) の文がある<sup>9</sup>。

4 頁目には、画面中央にペンを持ち机に向かって少年が描かれ、その両側にスクラップブックのイラストと赤十字マーク入りの文章が書かれている<sup>10</sup>。これも 1 頁目と同じ

<sup>5</sup> 当時の筆名はマギー・サルセド。彼女が描いた赤十字社連盟のポスター、ポストカード、パンフレットの詳細については以下を参照。Eri Matsumura, « Maggie Salcedo (Salzedo) et la publicité de la Croix-Rouge de la jeunesse », *Glaliceur*, n° 32, 2021, pp. 3-8 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-03360719>).

<sup>6</sup> 図版は本誌 *Glaliceur* サイト (<https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur>) の下記 URL の illustration 7 参照。<https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/maggie-salcedo-salzedo-et-la-publicite-de-la-croix-rouge-de-la-jeunesse>

<sup>7</sup> 上記 URL の illustration 8 参照。

<sup>8</sup> 上記 URL の illustration 9 参照。

<sup>9</sup> 上記 URL の illustration 10 参照。

<sup>10</sup> 上記 URL の illustration 11 参照。

く判じ絵で、全文は “WOULD YOU LIKE TO MAKE FRIENDS WITH CHILDREN IN OTHER LANDS? THEN PREPARE A SCHOOL ALBUM WHICH YOU THINK THEY WILL LIKE AND SEND IT TO THEM THROUGH YOUR RED CROSS” (外国の子どもたちと友達になりたいですか?それなら、彼らが気に入るようなスクールアルバムを作りましょう。そして、あなたの国の赤十字を通して彼らに送みましょう)になる。画面の右上には “MAGGIE SALZEDO” (マギー・サルゼド) のサインがある。学校での青少年赤十字支部の活動として、絵や写真や自国の習慣および日常についての作文で構成されたスクラップブックを他国の支部と交換して交流することは、この頃盛んに行われていた。

裏表紙には “YOU WILL FIND YOUR FELLOW JUNIORS IN 36 DIFFERENT COUNTRIES” (あなたは36カ国の青少年赤十字の仲間たちに出会えるでしょう) という文と、“S. RIESNER” のサイン入りイラスト (赤十字マークの上に置かれた地球の周囲を各国の民族衣装を着た子供たちが手をつないでいる) が描かれている<sup>11</sup>。画面下辺には発行元 “LEAGUE OF RED CROSS SOCIETIES PARIS” と印刷所名 “Imp. Union, Paris” が記載されている。

表紙絵を描いた E. STOVER と裏表紙絵を描いた S. RIESNER についての詳細は不明だが、1~4 頁のイラストはすべてマギー・サルゼド (当時はマギー・サルゼド名義) の作であり、彼女が描いた赤十字社連盟の青少年赤十字啓蒙ポスター<sup>12</sup> が元になっている。1924 年 11 月の手紙でこのポスターに彼女が言及していること<sup>13</sup> と、同じくポスターを元に作られたポストカードに 1925 年 4 月消印のものがあること<sup>14</sup> と、サインが「マギー・サルゼド」(1916~1926 年のペンネーム) であることから、ポスターは 1925 年初頭に制作されたと思われる。したがって、リーフレットの制作年代も同時期と推定される。さらに、裏表紙に書かれた「36 カ国の青少年赤十字の仲間たち」を根拠に、赤十字社連盟における青少年赤十字支部の加盟国数が 36 になった年がわかれば、より正確な制作時期の特定ができる。

<sup>11</sup> 註 6 掲載 URL の illustration 12 参照。

<sup>12</sup> サイズは縦横 85 x 65 cm で、キャッチフレーズつきイラスト全 6 種類から成る。リーフレットにはない、屋外で踊る少年が描かれたイラスト *DE L'AIR ... DU SOLEIL* がある一方、ラグビーをする少年たちの絵は含まれていない。ポスターのうち 3 点の画像がオークションサイト Van Sabben Poster Auctions のアーカイブ (no. 37, lots 326-328) にある。以下の URL を参照。 <https://www.vansabbenauctions.nl/designer/?designer=Salzedo>

<sup>13</sup> マギー・サルゼドが姉に宛てた手紙で、ポスター制作について赤十字社連盟アメリカ事務局からの要求に閉口している記述がある。Sylvia Dorance, « Le goût de la vie », *Maggie Salcedo*, Paris, Pack 2, 2000 [catalogue d'exposition], pp. 16-17.

<sup>14</sup> これはベルギー赤十字社が青少年会員勧誘用に販売した 5 枚組のポストカードで、そのなかに 1925 年 4 月 23 日付の消印のものが見ついている。Eri Matsumura, « Maggie Salcedo (Salzedo) et la publicité de la Croix-Rouge de la jeunesse », *op. cit.*, p. 7. ポストカードの図版については下記 URL の illustration 1~6 と illustration 13~14 を参照。 <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/maggie-salcedo-salzedo-et-la-publicite-de-la-croix-rouge-de-la-jeunesse>

### 3. 挿画家マギー・サルセドについて

赤十字社連盟の広告で魅力的な子どもたちを描いたマギー・サルセドとはいかなるイラストレーターであったのか。日本ではほとんど知られていない<sup>15</sup>このアーティストの経歴と主要な業績は以下の通りである。

彼女は 1890 年にパリの裕福なユダヤ人家庭の次女として生まれた。1907 年から 1959 年に没する直前までイラストレーターおよび作家活動をしていた。本名はマルグリット・セリグマン＝リュイ (Marguerite Séligmann-Lui) だが、複数のペンネームを時代によって使い分けている。1907 年のデビューから 1915 年の結婚前まではマギー (Maggie) を名乗る。1915 年 8 月に陶器製造業者アンドレ・サルゼド (André Salzedo) と結婚すると 1916 年からマギー・サルゼド (Maggie Salzedo) に改名し、1926 年までこの名を使った。1927 年にマギー・サルセド (Maggie Salcedo) に変更して、以後 1959 年に亡くなるまでこれをペンネームとしていた。マギー・サルゼドからマギー・サルセドに改称したのは不幸な結婚生活に起因する。彼女は 1931 年に離婚したが、ペンネームを変えたきっかけは 1927 年に夫アンドレが不倫相手との間に子を儲け、事業のためにマギーの私有財産をつぎ込んだあげく破産したことであった。それでも、すでに知られていた旧筆名のメリットを活かすべく、“Salzedo” から “Salcedo” への軽微な変更にとどめた<sup>16</sup>。

マギー・サルセドはパリのグランド・ショーミエール芸術学校 (Académie de la Grande Chaumière) でグラフィックアートを学び、1907 年 17 歳の時にクリストフ (生物学者ジョルジュ・コロンの筆名) 作の児童書『ポムとポワールのいたずら』<sup>17</sup>の挿絵を担当してデビューした。

その後、1912 年 11 月に創刊された高級モード雑誌『ガゼット・デュ・ボン・トン』 (*Gazette du bon ton : arts, modes et frivolités*) にイラストレーターとして参加した。創刊時のイラストレーターたちは、レオン・バクスト (Léon Bakst)、ジョルジュ・バルビエ (George Barbier)、ベルナル・ブテ・ド・モンヴェル (Bernard Boutet de Monvel)、ピエール・ブリソー (Pierre Brissaud)、

<sup>15</sup> ただし日本で紹介されたことはある。図録『アール・デコ グラフィック展 1983—1920 年代のアート・ポスター』(アート・ライフ、1983 年)には、ポスター(ドレスとコートの広告、1924 年)が 1 点、図録『アール・デコ アート・ポスターに見る、1920 年代』(谷口事務所、1991 年)には、ポスター 4 点(ルーヴル百貨店の子供服の広告 2 点、子供服・紳士服の広告 1 点、婦人服の広告 1 点、1923~1926 年頃)が掲載されている。いずれもマギー・サルゼド名義。

<sup>16</sup> ペンネーム変遷の詳細については以下を参照。Eri Matsumura, « Quand Maggie est-elle devenue Salcedo ? », *GLALICEUR*, n° 27, 2021, pp. 1-7 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-03093541>).

<sup>17</sup> Christophe [Georges Colomb], illustré par Maggie, *Les Malices de Pomme et Poire*, Paris, Bibliothèque d'éditions pour enfants, 1907.

ウンベルト・ブルネレスキ (Umberto Brunelleschi)、ジョルジュ・ルパップ (Georges Lepape)、シャルル・マルタン (Charles Martin)、アンドレ・エドゥアール・マルティ (André Édouard Marty)ら錚々たる顔ぶれであったが、そのメンバーのひとりにマギー・サルセド (この時の筆名はマギー) も選ばれたのである。彼女は1912～1921年に3点のファッションプレートと14本の記事の挿絵を描き、記事のうち4本 (テーマは子ども用の帽子や子どもが登場する幻想的な話) は執筆も担当した<sup>18</sup>。挿絵はほぼ子どものファッションに関するものであり、そこには当時のリアルな子どもたちが表情豊かに生き生きと描かれている<sup>19</sup>。一時代前の、たとえばセギュール夫人『ソフィーのいたずら』初版<sup>20</sup>の挿絵に見られるような「小さな大人」的な子どもたちの姿とは一線を画している<sup>21</sup>。

1920～1930年代にはマギー・サルセドは挿絵画家として目覚ましく活躍しており、とくにジュダルジュ社 (Librairie Gedalge) とブールリエ社 (Editions Bourrelier)<sup>22</sup> から刊行された児童書に数多くの表紙絵と挿絵を描いている。たとえば、ジュダルジュ社が1926～1955年頃まで出版したオーロール叢書 (Collection Aurore) で、彼女は創刊時から1938年まで表紙絵を担当した。この叢書にはバルザック『ピエレット』やメリメ『コロンバ』の再話、ガブリエル・モーリエール『ポー・ド・ペッシュ』をはじめとする児童文学、ツルゲーネフ『獵人日記』の抄訳などが収められている<sup>23</sup>。

また、ブールリエ社のプリムヴェール叢書 (Collection Primevère) では表紙絵を、マルジョレーヌ叢書 (Collection Marjolaine) では表紙絵と数作の挿絵を描いた。プリムヴェール叢書は10～14歳向けに1931～1959年頃まで続いたシリーズで、マギー・サルセド画の表紙は創刊時から1947年頃まで使われた。マリー・コルモン『雪のナイチンゲール』やジョルジュ・ニグルモン『ジャントゥ、クルーズの石工』などの児童文学のほか、ゴージェエ『ミイラ物語』の再話やディケンズ『ディヴィッド・コパフィールド』の抄訳などがあった<sup>24</sup>。マ

<sup>18</sup> 『ガゼット・デュ・ボン・トン』における彼女の仕事については以下を参照。Eri Matsumura, « Maggie au pays du bon ton », *GLALICEUR*, n° 57, 2022, pp. 1-8 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-03659744>).

<sup>19</sup> <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/maggie-au-pays-du-bon-ton> の figure 1 を参照。

<sup>20</sup> Comtesse de Ségur, *Les Malheurs de Sophie*, illustrations de Horace Castelli, Paris, Hachette, 1858.

<sup>21</sup> 註19掲載URLのfigure2を参照。

<sup>22</sup> 1931年にEditions Bourrelier-Chimènesとして創業。1932年10月にEditions Bourrelier et Cieに社名変更し、1940年代以降は1963年にArmand Colinに合併されるまでEditions Bourrelierの表記であった。

<sup>23</sup> Honoré de Balzac, *Pierrette*, édition pour la jeunesse, Paris, Gedalge, Collection Aurore n° 7, 1927 ; Prosper Mérimée, *Colomba*, Paris, Gedalge, Collection Aurore n° 5, 1927 ; Gabriel Maurière, *Peau-de-Pêche*, Paris, Gedalge, Collection Aurore n° 8, 1927 ; Ivan Tourguéneff, traduits et adaptés pour la jeunesse par E. Halpérine-Kaminsky, *Récits d'un chasseur*, Paris, Gedalge, Collection Aurore n° 4, 1927.

<sup>24</sup> Marie Colmont, *Rossignol des neiges*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Primevère, 1935 ; Georges Nigremont, illustré par Simone Beuglé, *Jeantou, le maçon creusois*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Primevère, 1937 ; Théophile Gautier, adapté pour la jeunesse et revu par l'auteur, *Le Roman de la momie*, Paris, Bourrelier-Chimènes, Collection Primevère, 1931 ; Charles Dickens, traduit et adapté par Marguerite Lacape, *David Copperfield*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Primevère, 1932.

ルジョレーヌ叢書は8～12歳向けに1932～1965年頃まで続いたシリーズで、創刊から1939年まで刊行されたすべての本にマギー・サルセド画の同じ表紙絵が使われていた。リリー・ジャン＝ジャヴァール『グリミュゾおばさんは語る……』やマルセル・ヴェリテ『ミーブと友だちと動物たち』などのフランスの児童文学と、エーリカ・マン『シュトツフェルの飛行船』やエーリッヒ・ケストナー『点子ちゃんとアントン』といった外国の児童文学から成る<sup>25</sup>。

とくに『グリミュゾおばさんは語る……』<sup>26</sup>は好評で版を重ね、英訳<sup>27</sup>と邦訳<sup>28</sup>も刊行された。英訳版はカラーの挿絵も加わり、マギー・サルセドの持ち味である俯瞰した大胆な構図も増え、さらに魅力的なイラストとなっている<sup>29</sup>。ただし、英訳版は抄訳で、邦訳版は英訳版からの抄訳である<sup>30</sup>。著者のリリー・ジャン＝ジャヴァールはマギー・サルセドの従姉にあたり、彼女たちが共同で制作した児童書は13作におよぶ<sup>31</sup>。

マギー・サルセドはこうした児童書以外に、ジョルジュ・サンド『愛の妖精』と『魔の沼』、アナトール・フランス『小さなピエール』<sup>32</sup>と『花ざかりの頃』、シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』といった一般向け小説にも挿絵を描いている<sup>33</sup>。

また、文筆活動として「マギー・サルセド」名義で絵本を6冊<sup>34</sup>、「マギー・サルセド」名義で児童書を3冊<sup>35</sup>刊行した。とくに、1926年刊の6冊の絵本は“Collection Maggie Salzedo”

<sup>25</sup> Lily Jean-Javal, illustré par Maggie Salcedo, *La mère Grimuzot raconte...*, Paris, Bourrelier-Chimènes, Collection Marjolaine, 1932; Marcelle Vérité, illustré par Françoise Estachy, *Mipe, ses amis et ses bêtes*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Marjolaine, 1938; Erika Mann, traduit par J.-H. Morin-Munsch, illustré par Maggie Salcedo, *Petit Christophe et son dirigeable*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Marjolaine, 1934; Erich Kästner, traduit par Simon Hugh, illustré par Jacques Touchet, *Petit Point et ses amis*, Paris, Bourrelier et Cie, Collection Marjolaine, 1936.

<sup>26</sup> 同書の挿絵は <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/la-mère-grimuzot-raconte-en-trois-langues> の illustration 8~9 を参照。

<sup>27</sup> Lily Jean-Javal, Adapted by Rachel Field from the translation by Marion Saunders, Illustrated by Maggie Salcedo, *Fortune's Caravan*, London, Oxford University Press, 1935.

<sup>28</sup> リリー・ジャン・ジャヴァール著、光吉夏弥訳、森国昔彦画、『サーカスの一家』、世界新名作童話8、光文社、1957年。森国昔彦の挿絵はマギー・サルセドの挿絵の模写が多い。註26掲載URLの illustration 1~3 を参照。

<sup>29</sup> 註26掲載URLの illustration 4~7 を参照。

<sup>30</sup> 原書、英訳版、邦訳版の比較については以下を参照。Eri Matsumura, « La mère Grimuzot raconte... en trois langues », *Glaliceur*, n° 28, 2021, pp. 1-14 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-03220108>).

<sup>31</sup> リリー・ジャン＝ジャヴァール作、マギー・サルセド画の児童書については以下を参照。Eri Matsumura, « Quand Maggie est-elle devenue Salcedo ? », *op. cit.*, p. 1, notes 4 et 7.

<sup>32</sup> 同書の挿絵は <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/quand-maggie-est-elle-devenue-salcedo> の figure 5 を参照。

<sup>33</sup> George Sand, illustré par Maggie Salcedo, *La petite Fadette suivi de la Mare au diable*, Paris, Gedalge, 1934; Anatole France, illustré par Maggie Salcedo, *Le Petit Pierre, suivi de La Vie en fleur [Œuvres complètes, tome XXIII]*, Paris, Calmann Lévy, 1932; Charlotte Brontë, traduit par J.-C. Gourdon, illustré par Maggie Salcedo, *Jane Eyre*, Paris, Gedalge, 1950.

<sup>34</sup> Maggie Salzedo, *Les Devinettes de ma mère l'Oie; Histoire du petit cochon qui était aussi malin que le gros loup; Bout de Réglixe n'a pas de malice; A B C de tous les métiers; Les Trois souhaits du Père Pain-Blanc; Alphabet des bons et méchants enfants*, Paris, Gedalge, Collection Maggie Salzedo, 1926.

<sup>35</sup> Maggie Salcedo, *Le Livre de Miette*, Paris, Bourrelier et Cie, 1934; *La Mission du Biquet*, Paris, Albin Michel, 1948; *Marie-Françoise au pensionnat*, Poitiers, Union chrétienne des dames de Saint-Chaumont, s.d.



と銘打たれ、版元のジュダルジュ社から大々的に売り出された<sup>36</sup>。当時のお年玉プレゼント用書籍カタログ<sup>37</sup>にも、バンジャマン・ラビエ (Benjamin Rabier)、アンドレ・エレ (André Hellé)、エディ・ルグラン (Edy Legrand) といった今もなお読み継がれている優れた挿絵画家たちの絵本と肩を並べて広告に登場しており、彼女の実力と人気の高さが窺える。ジュダルジュ社は前述のとおり、この年から始まったオーロール叢書でもマギー・サルセドを表紙画家に採用しており、同社が彼女をアーティストとして信頼していたことを示している。

他方、彼女は広告のイラストを数多く描いていた。ジャンルは赤十字社連盟や製薬会社の広告ポスターやポストカード、パリの百貨店<sup>38</sup>の季節カタログやポスター、モード雑誌のファッション広告<sup>39</sup>、着せ替え人形ブルーエット (Bleuette)<sup>40</sup>の衣装小物カタログ<sup>41</sup>など、多岐にわたっている。

第二次世界大戦が始まるとマギー・サルセドはユダヤ人ゆえにパリからの疎開を余儀なくされ、バルフルール、バイヨンヌ、クルーズなど地方を転々とし、イラストの仕事の取引先 (パリに集中していた) との関係が途切れてしまう。そのため戦後、彼女は児童文学に活路を見出した。マリー＝クロード・カステラン (Marie-Claude Castéran) という作家名で、少女向けの絵入り週刊新聞『スメヌ・ド・シュゼット』 (*La Semaine de Suzette*) に 1948 年から 1955 年にかけて、短編・中編 33 本と連載長編小説 2 本を著した。さらに、この新聞から誕生した叢書からも児童書を 2 冊出版している<sup>42</sup>。彼女が書いた短編・中編は昔話、ファ

<sup>36</sup> 6 冊中 3 冊の絵本の挿絵は以下の URL の各図版を参照。

<https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/connaissiez-vous-la-collection-maggie-salzedo>

<sup>37</sup> *Livres d'étrennes, publications périodiques et œuvres musicales pour l'année 1927* (Paris, Cercle de la librairie, *Supplément de Bibliographie de la France : Journal général de l'imprimerie et de la librairie*, n° 47, 115<sup>e</sup> année, 2<sup>e</sup> série, 19 novembre 1926).

<sup>38</sup> ルーヴル (Les Grands Magasins du Louvre)、トロワ・カルティエ (Aux Trois-Quartiers)、ベル・ジャルディニエール (La Belle Jardinière)、グランド・メゾン・ド・ブラン (La Grande Maison de Blanc)、ミニャプフ (Mignapouf) など。ルーヴル百貨店 1927 年クリスマス・1928 年お年玉用玩具カタログの表紙は以下の URL の figure 3 を参照。 <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/quand-maggie-est-elle-devenue-salcedo>

<sup>39</sup> たとえば仏版『ヴォーグ』1927 年 9～12 月号にはマギー・サルセドが描いたリヴォリア (Rivolia) 社製レインコートの広告が掲載されている (*Vogue*, 1<sup>er</sup> septembre 1927, p. 54; 1<sup>er</sup> octobre 1927, p. 64; 1<sup>er</sup> novembre 1927, p. 58; 1<sup>er</sup> décembre 1927, p. 54 (<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/cb343833568/date1927.liste>)).

<sup>40</sup> 絵入り週刊新聞『スメヌ・ド・シュゼット』の定期購読者への特典として誕生した人形。同紙の発行元 (Gautier-Languereau) から、新聞の刊行期間 1905～1960 年 (ただし 1940 年 6 月 6 日で休刊し、1946 年 5 月 30 日に復刊) に、素材やサイズを変えつつ販売され続けた。この人形の着せ替え服によって女兒服の 50 余年の流行をたどることができる。

<sup>41</sup> たとえば 1935～1936 年冬物カタログのように、商品目録にとどまらない物語性のあるものも多い。 <https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/les-années-d'apprentissage-de-marie-rose-seguin-dite-cousette> の figure 3 を参照。マギー・サルセドは、ブルーエットのカatalogueのイラストを 1927～1928 年冬号から 1936～1937 年冬号まで (1934～1935 年冬号、1935 年夏号、1936 夏号をのぞく) 描いていた。

<sup>42</sup> マリー＝クロード・カステラン名義の作品 (『スメヌ・ド・シュゼット』紙掲載小説および著書) については以下を参照。Joël Talon et Anne Danguy des Déserts (établie par), « Marie-Claude Castéran, Bibliographie », *La Plume et le Pincean. Lily Jean-Javal, Maggie Salcedo, Yzeure, LACME*, 2013 [catalogue d'exposition], pp. 81-84; Eri Matsumura, « Maggie Salcedo et Marie-Claude Castéran dans *La Semaine de Suzette* », *Glaliceur*, n° 64, 2022, pp. 1-12 (<https://halshs.archives-ouvertes.fr/halshs-03741996>).

ンタジー物、冒険譚、成功譚、滑稽噺、訓話など多種多様である。2本の連載長編はどちらも孤児や片親のヒロインが苦勞しつつも明るさを失わず、さまざまな人々と交流しながら願いを叶えていくストーリーであるが、ミステリー仕立てであったり、滑稽なエピソードがふんだんに盛り込まれていたり、読み手を惹きつける巧みな演出がなされている。そして、マリー＝クロード・カステラン名義のすべての著作に共通しているのは、登場人物たちのキャラクターが多彩で個性的なことと、マギー・サルセド自身が挿絵を描いていることである。イラストの効果で、彼女が創りだしたキャラクターたちの可愛らしさ、けなげさ、滑稽さ、意地悪さは一層際立ち、作中の各場面の情緒と躍動感も説得力を増すのである<sup>43</sup>。

#### 4. おわりに

マギー・サルセドは児童書・雑誌・広告の分野で長く制作活動をしていただけあって、その作品数が非常に多い。にもかかわらず、挿絵を描き執筆した児童書はすべて絶版になり、雑誌や広告における作品も残っているものが少ないため、永らく忘れられた存在であった。しかし、フランスでは2000～2001年の回顧展<sup>44</sup>開催をきっかけに、2013年にリリー・ジャン＝ジャヴァルとの二人展<sup>45</sup>が、2022年に展覧会<sup>46</sup>が開かれるなど、彼女の仕事が再評価されつつある。画家として「優美でありながら滑稽さを持ち、敏捷な動きのいたずらっ子で、生命力に満ちあふれた、実際にいる子どもたち」<sup>47</sup>を描ける才能と「構図や空間の構成やレイアウトにおいて卓越したセンス」<sup>48</sup>を備え、また、児童文学の作家としての顔も持つこのアーティストについて、さらなる資料の発掘と研究が行われることが望まれる。

<sup>43</sup> 『スメヌ・ド・シュゼット』紙掲載小説の挿絵は以下の URL の figure 3~4 と figure 6~9 を参照。  
<https://sites.google.com/view/site-de-glaliceur/accueil/maggie-salcedo-et-marie-claude-casteran-dans-la-semaine-de-suzette>

<sup>44</sup> L'exposition « Maggie Salcedo », au Cloître des Carmes, Jonzac, 1<sup>er</sup> – 30 septembre 2000 et à la Bibliothèque Forney, Paris, 19 juin – 25 août 2001.

<sup>45</sup> L'exposition « La Plume et le Pinceau. Lily Jean-Javal, Maggie Salcedo », au château de La Palice, Lapalisse, 27 juin – 14 juillet 2013, à Ainay-le-Château, 19 juillet – 15 septembre 2013, à Souvigny, 18 octobre – 17 novembre 2013 et à Commentry, 3 – 31 décembre 2013.

<sup>46</sup> L'exposition « Dessins de Maggie Salcedo (1880-1959) », à la Maison Louis Latour, La Verdrière, 6 – 28 mai 2022.

<sup>47</sup> « ... ce sont de vrais enfants, gracieux, drôles, lestes, espiègles, plein de vie. » (Sylvia Dorance, « Maggie... avec un Z ou un C ? », *La Plume et le Pinceau*, *op. cit.*, p. 22).

<sup>48</sup> « Vous avez le sens de la composition, de l'organisation de l'espace et de la mise en page. » (Léone Berchadsky, « Chère Maggie », *Maggie Salcedo*, *op. cit.*, p. 24).